

況

海洋速報

昭和63年度 第2号 (No. 2)

昭和63年 6月22日

北海道立水産試験場

5月末～6月上・中旬の海況

[日本海海域]

表面水温はほぼ、道北海域では9～11℃、道央海域では11～13℃、本州北部沿岸域～津軽海峡西口沖では14～15℃台を示していました。50m層では10℃台の暖水域が津軽海峡西口沿岸域まで達していました。積丹沖では最高8℃台を示していましたが、石狩湾では4℃台の低温域も見られました。

なお、道南日本海域の海洋観測は6月下旬～7月はじめにかけて、日本海スルメイカ調査(函館水試、おやしお丸)の中で実施の予定です。

[オホーツク海域]

表面水温は沿岸域でほぼ6～9℃、沖合域でも6～7℃まで昇温しましたが、北部の頓別沖付近には、2℃台の顕著な冷水域が見られました。沿岸域の中層では50m層で最高4℃、100m層で2℃台を示していましたが、沖合域では0℃以下、100m層では-1℃以下の中冷水に広く覆われています。

[太平洋海域]

道東海域では沿岸域ほど冷たく、表面ではほぼ6～8℃台、50m層では1℃台の低水温でした。沖合域では、表面水温は最高14℃台に達し、50m層では10℃、100m層で7℃台の暖水域が東部沖合域から沿岸へ張り出していました。

道南太平洋海域の表面水温は9～11℃台を示し、50m層では胆振～日高沖に2℃台の顕著な冷水域がみられ、100m層でも日高沿岸域に1℃台の冷水域が認められました。

[流況]

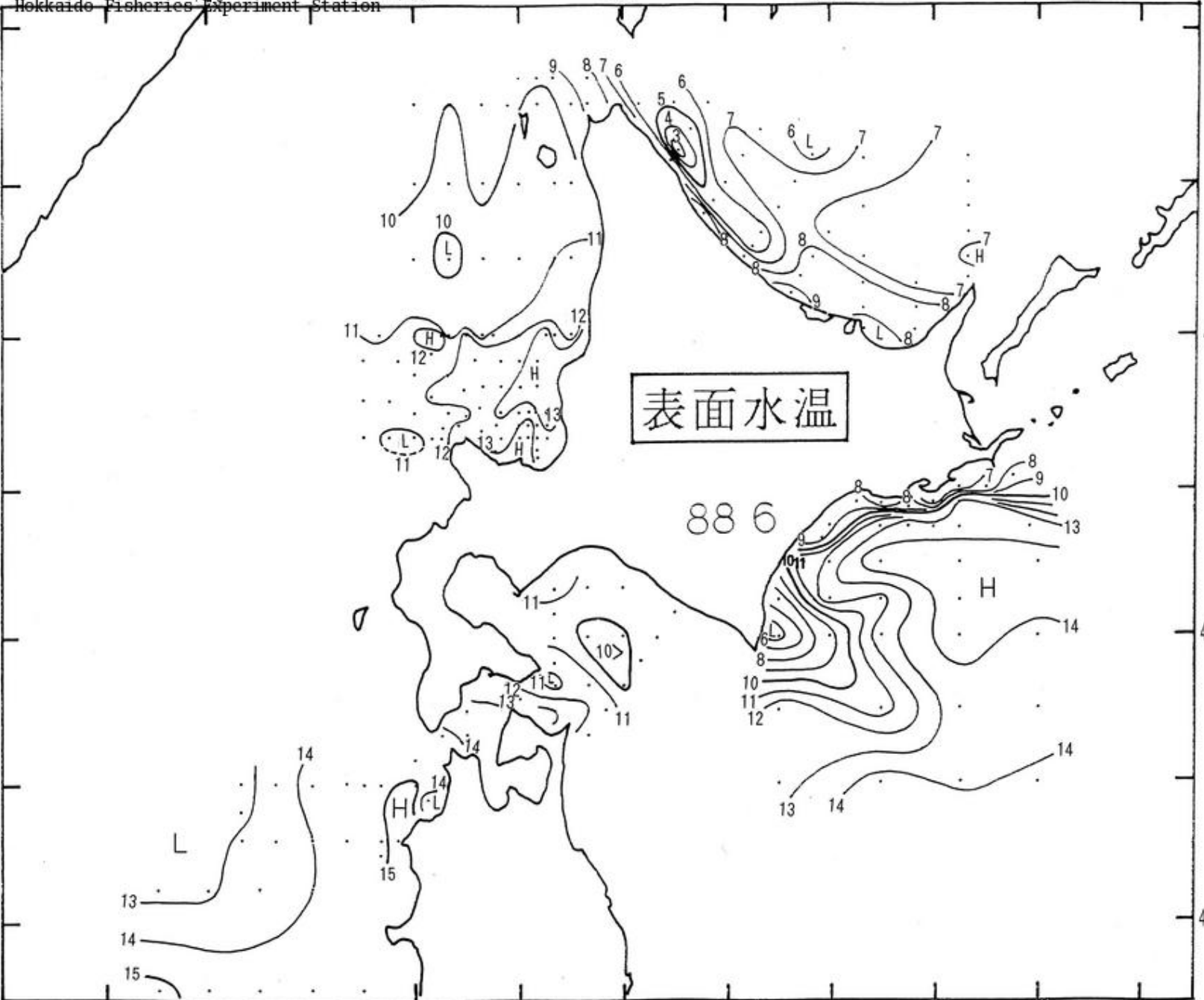
北部日本海～オホーツク海の表層流況は、全般に道北海域とオホーツク海の沖合域～知床沿岸域では弱く、宗谷海峡付近から網走付近までのオホーツク海沿岸域で1ノット前後の比較的強い南東流成分が顕著でした。

なお、道南、本州北部海域では、津軽海峡西口～海峡内で強い北東流成分が認められました。

—資料出所—

稚内水試(北洋丸)	5/30-6/1(道北日本海定期観測)
	6/7-9(オホーツク海定期観測)
釧路水試(北辰丸)	6/1-4(道東太平洋定期観測)
函館水試(おやしお丸)	6/6-11(日本海スルメイカ調査)
	6/15-16(道南太平洋定期観測)
中央水試(金星丸)	6/2-14(道央日本海定期観測)
青森水試(青鯨丸)	5/30-31(日本海定期観測)

(中央水試 海洋部)



表面水温

886

138

140

142

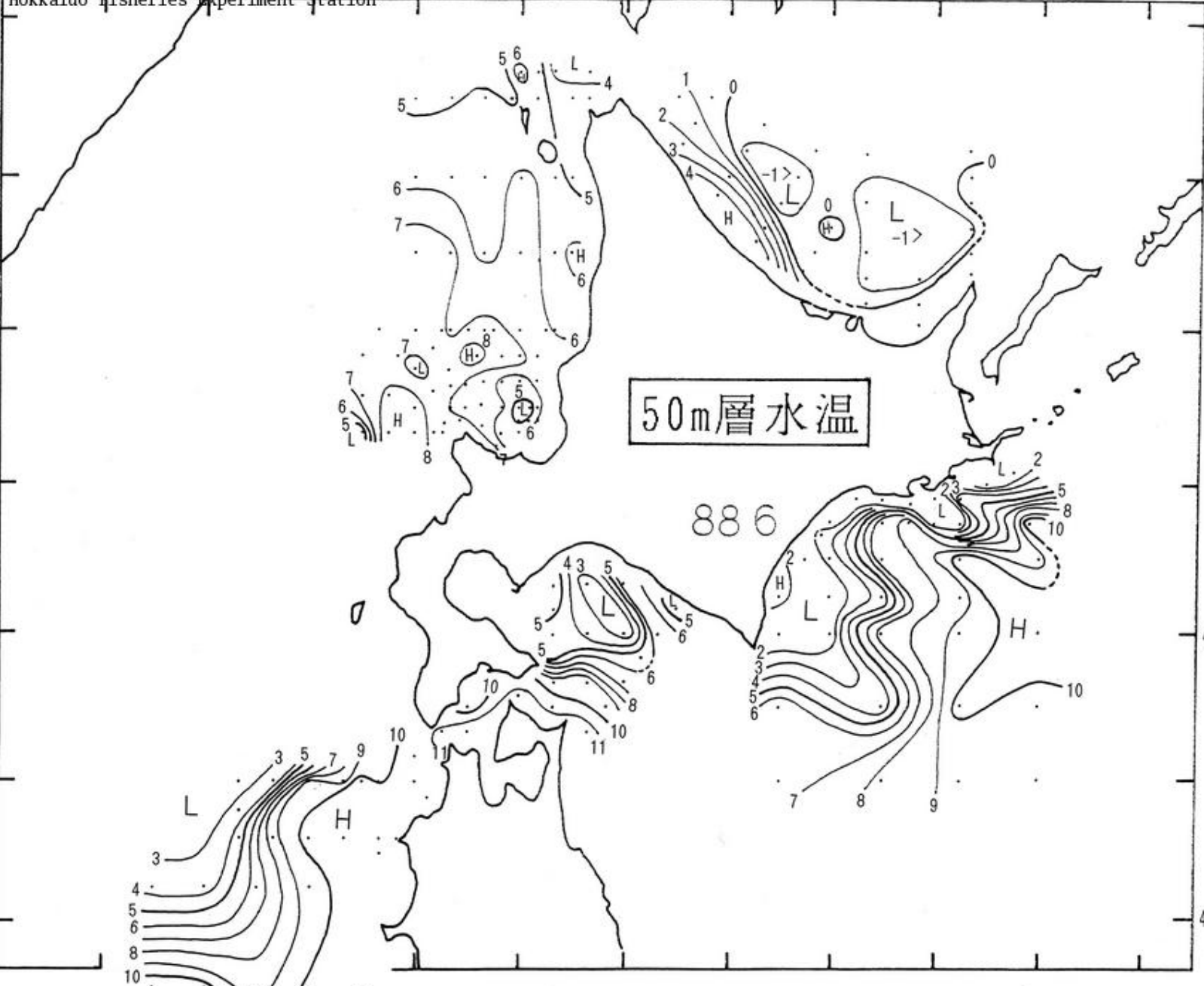
144

146

Hokkaido Fisheries Experiment Station

50m層水温

886



138

140

142

144

146

Hokkaido Fisheries Experiment Station

46

44

42

40

100m層水温

88 6

